

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成21年10月25日 午後1時半～4時半
開催場所	ウィメンズパル (多目的ホール、視聴覚室、洋室D)
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。 特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

緑豊かでゆとりある良好な住環境の形成 変更なし

都市基盤が不十分な地域では、都市計画道路の整備推進と併せて、まちづくり手法(地区計画によるルールづくり)を検討することを付加。

良好な住環境を形成していくためには、良好なコミュニティ形成が必要なことを付加。

緑の保全に農地を活用することを示す。

ミニ開発を防止するのみならず、安全で快適な住環境の維持形成を図ることを示す。

豊富な自然・歴史資源を活用した水と緑豊かなまちづくり 変更なし

江戸川と中川、大場川の治水安全性の向上を付加。

中川についても、水と緑のネットワーク化に付加。

水と緑のネットワークとして、新宿6丁目のまちづくりやフィットネスパーク整備事業などとの連携を示す。

適切な交通ネットワークの構築 変更なし

歩行者や自転車の安全性についても付加。

都市計画道路の整備を推進し、区内交通や隣接区市へのアクセスの充実に示す。

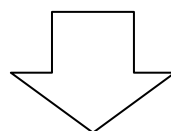
岩槻街道から水元公園へのアクセスの向上について示す。

賑わいのある身近な買物空間の形成

水元公園やフィットネスパークを軸とする文化・レクリエーション拠点と地域の生活を支える賑わいの形成

水元体育館周辺のフィットネスパーク整備事業を推進し、地域の生活や交流を支える健康づくりの拠点となる、文化・レクリエーション拠点として形成していくことを示す。

地域生活を支える身近な商店街については、地域の生活を支える賑わいの形成として示す。



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

緑豊かでゆとりある良好な住環境の形成

- ・緑豊かでゆとりある良好な住環境の形成では、壁面後退により隣接地との間隔を設置するルールが必要である。
- ・震災時に倒壊の危険があるブロック塀の規制も重要と考える。
- ・小規模な住宅開発も進み、建て詰まった住宅地が形成されていることから、敷地分割の際の最低敷地面積もルールとして決めていくことが必要である。
- ・地区ごとの住民が関わって、以上のような地区計画によるルールづくりを進めていく。
- ・隣同士がお互いに配慮して、より良い住環境を形成していけば、地域の信頼や助け合いなどにつながる。それが、防犯や防災、震災時の助け合いなどにも役立つと考える。

豊富な自然・歴史資源を活用した水と緑豊かなまちづくり

- ・水元地域は、ゼロメートル地帯もあり、震災による中川堤防の破堤が問題である。
- ・飯塚橋上流の中川堤防が危険であり、嵩上げと耐震補強が必要である。
- ・中川に加え、大場川の堤防強化も必要である。
- ・震災も考慮し、堤防の強化がまず重要であり、その上で、親水空間の形成や散策路などのネットワーク化を進めていくことが必要である。水元地域は、幹線道路の整備も必要であるが、生命を守るための治水安全性の向上が優先される。
- ・水防のまちづくりに関わる方針を強化したい。 の方針は、治水安全性の強化と豊富な自然・歴史資源を活用した水と緑豊かなまちづくりに変更する。

適切な交通ネットワークの構築

- ・幹線道路の整備が進んでいないので都市計画道路の整備推進については示しておいてほしい。
- ・中川を渡る都市計画道路の早期整備を望んでいる。

水元公園やフットネスパークを軸とする文化・レクリエーション拠点と地域の生活を支える賑わいの形成 特に意見なし

その他のご意見

- ・都市計画道路の計画線内に建物が建つ場合があるが、本来であれば道路整備の際は協力することが示されているにも関わらず、現在整備中の岩槻街道にまだ残っている建物があり、早期に整備を進めてほしい。
- ・西水元の中川沿いの道路で、水辺の広場南側に狭いところがある。堤防強化と併せて安全にしてほしい。
- ・中川沿いの緑化がどの程度可能なのか。堤防上に樹木が植えられないのであれば、中川の沿いの道路などを活用できないだろうか。
- ・地区計画というルールづくりの制度があるのであれば、地域も協力して検討していきたいと考えるので、区もPRや働きかけをお願いしたい。

<勉強会の今後の進め方について>

基本方針については、概ね共有化出来たと思うので、予定通り次のステップ（整備方針）に進んで差し支えないと考えられる。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成21年10月25日 午後1時半～4時半
開催場所	ウィメンズパル（多目的ホール、視聴覚室、洋室D）
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。 特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

賑わいと活力のある中心市街地の再生 賑わいと活力のある広域生活拠点の形成
交通結節点となる金町駅の利便性の向上を強調。
市街地の防災性向上について記述。
金町駅北口駅前広場空間の再構成や歩行空間の整備及び周辺ネットワークの強化について記述。
金町駅周辺の再開発事業や大学誘致におけるまちづくりを通じ、新たなコミュニケーション拠点としてまちを活性化していく旨を付加。

三菱製紙工場跡地の再開発による新たな拠点の形成 新たな地域の顔となる大学と公園を核としたまちづくり

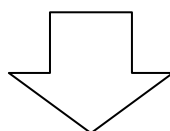
地域の新たな顔にふさわしいまちづくりに取り組む趣旨を盛り込む。
災害時の避難拠点としての位置づけを踏まえた記述を付加。
新たな避難場所となる大学・公園は盛土するなど、浸水対策を行うことも加味。
周辺の文教施設とのネットワークを通じ、文化・交流拠点としての位置づけを踏まえた記述を付加。
公園整備による金町駅周辺のヒートアイランド緩和などの地域生活環境の改善について記述。

水辺と親しめる公園づくりと観光ネットワークの形成 河川と連携した公園づくりと観光・レクリエーションネットワークの形成

水元公園、江戸川沿いのサイクリングロードの維持、充実を図るとともに、金町駅を起点としたネットワーク形成の記述を踏まえる。
中川との連携を強化
新宿六丁目の公園との関わり
金町駅を始点とした南北方向の観光ネットワークの強化について付加。

地区特性に応じた調和のとれた安全で良好な住環境の形成 変更なし

土地区画整理事業を施行すべき区域における都市基盤の充実を付加。
新宿六丁目のまちづくりに合わせた周辺の住宅地のあり方について付加。
現状の住環境の改善・向上していくことを強調。
水元公園と新宿六丁目地区周辺を結ぶ回廊ネットワークについて付加。
都市美の誘導につなげる。



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

賑わいと活力のある広域生活拠点の形成

新たな地域の顔となる大学と公園を核としたまちづくり

} 時間の関係で、区切らず
一体的に意見をいただいた。

- ・金町駅周辺は、常磐線によって南北に分断されている。駅周辺の賑わいを向上させるには、常磐線を南北に縦断できる道路（当面は、人が通行できるものでよい）が必要である。

金町駅南側周辺の商店街は南北方向の人や車の行き来がないために、衰退してしまった。

- ・金町駅周辺や新宿6丁目の開発を結ぶためには、金町駅 新宿6丁目だけを考えるのではなく、金町・新宿地域全体をとらえて、南北方向の道路整備や公共交通網を考えていく必要がある。

河川と連携した公園づくりと観光・レクリエーションネットワークの形成

- ・児童公園は多いが、子供のたまり場となっており、ルールやモラルの向上が必要である。
- ・公園は、小さな公園ではなく、ある程度広さがある公園を整備していくべきである。

新宿6丁目にできる公園は、そういう面では期待できる。

- ・新宿6丁目にできる公園が防災拠点としての公園の位置づけにもなるが、中川の堤防高は十分に取れているのか。

地区特性に応じた調和のとれた安全で良好な住環境の形成

- ・金町駅南側の地区は、常磐線、水戸街道、新金線に囲まれて、身動きが取れない地区であり、住環境、道路環境、防災性等に問題がある。

地区を通り抜けできるように最低限の道路整備（住環境の整備）が必要である。

一方通行や幅員の狭い道路ばかりである。

- ・新宿2丁目地区は、旧水戸街道がとおっており、昔ながらの街並みが残っている。防災性の問題もあるが、このような街並みを残していきたい。

その他のご意見

新金線について

- ・新金線は活用するのではなく、廃止すべきではないか。

運行している貨物の本数も少ない。

新金線があるために、並行する都市計画道路の整備が行われていない。

新金線があるために、東西の流れ・地域を分断する要素になってしまう。

- ・新金線を廃止するのではなく、南北方向の交通として利用したい。

現在、金町から新小岩に出たくても、直通する公共交通網がない。

貨物の運行時間の空きを活用して、LRTやミニバスの運行の検討ができないか。

超長期的には、新金線を廃止し道路として活用することも検討したい。

次回までの宿題

- ・堤防高の関係で、中川橋の改修が行われているが、中川の堤防高はどうなっているか知りたい。（堤防高は足りているのか。）

<勉強会の今後の進め方について>

時間が足りず、十分に基本方針について議論しきれていない。次回は、整備方針を検討しつつ、基本方針について見直しを図っていくべきかと考える。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成 21 年 10 月 25 日 午後 1 時半～4 時半
開催場所	ウィメンズパル（多目的ホール、視聴覚室、洋室D）
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。 特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

柴又界隈を中心とした魅力ある観光拠点の形成と歴史性を重視したまちづくり 変更なし
柴又駅周辺も含めた商店街全体としての回遊性を高めること、楽しく回遊できる交通手段の工夫（レンタサイクル等）、観光資源的要素の強化、個性ある景観形成などにより、一層の魅力づくりや活性化を図ることを記述。

金町や高砂などの利便性の高い地域との連携強化を付加。

景観法の活用などによる更なる歴史性を重視したまちづくりの検討を進めることを記述。

（新規）京成本線の鉄道立体化の早期実現と魅力と活力あふれる高砂駅周辺のまちづくり
高砂団地の建替えと連携しつつ、鉄道立体化に併せた商業、業務機能の集積や良好な居住機能の整備を進め、回遊性と利便性の高い複合市街地の形成を図ることを記述する。

安全で落ち着いたある住環境の形成 変更なし

土地区画整理事業を施行すべき区域の整備方針に基づく取組みの推進。

都市計画道路の整備と連動したまちづくりを推進することを記述。

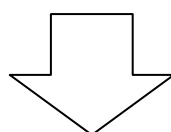
高砂駅周辺のまちづくり及び高砂団地の建替えと連動して、公園や緑の空間の確保など住環境向上の取組みをすることを記述。

水辺と一体的な文化・レクリエーション拠点の形成 変更なし

中川と江戸川の間に広がる市街地においても、潤いある水と緑のネットワーク及び空間づくりを進めていくことを記述。

新中川3橋の架け替えに併せた奥戸総合スポーツ公園とのアクセス性の向上を記述。

洪水時の避難場所確保のための高台の創出を記述する。



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

柴又界隈を中心とした魅力ある観光拠点の形成と歴史性を重視したまちづくり

- ・江戸川での観光船の運航は観光客誘致に大きな力になるのではないか。
- ・寅さん記念館（棧橋）～東京ディズニーランド～スカイツリーといったような観光ルートを提案していくようなことは考えられないか。
- ・現状では柴又から高砂方面に行くことはあまりない。それは道も狭く踏切りの問題で通行が不便だからだ。双方の連携を謳うのであれば、鉄道高架化や道路整備は是非とも取り組まなくてはならない条件だ。

（新規）京成本線の鉄道立体化の早期実現と魅力と活力あふれる高砂駅周辺のまちづくり

- ・成田新高速鉄道の実現によって、開かずの踏切り状態がひどくなるのではないかと心配だ。
- ・高砂駅周辺の道路はほとんどが復員 10m 未満だし歩道も飛び石状態だ。防災の観点からも早期の整備が必要だ。
- ・高砂団地の建て替えは、高齢者が住みやすい街として地域のモデルになるような住宅づくりを進めて欲しい。

安全で落ち着いたある住環境の形成

- ・柴又街道（都市計画道路）は整備済みという位置づけではあるが、現状はバスのすれ違いがやっとなあり、歩道も狭く安全性にも問題がある。
- ・高砂団地の建て替えに伴い創出される用地に京成車庫の導入や避難所も兼ねたような公園空間の創造によって、地域の住環境の改善に資するべきだ。

水辺と一体的な文化・レクリエーション拠点の形成

- ・新中川 3 橋の架け替えは、全く新たに架け直すのは時間も費用も膨大になるので、既存橋の修復や歩車を分離してつくることも考えてほしい。

その他のご意見

- ・地域の安全安心をテーマにした議論をして欲しかった。
- ・災害時に一時的な避難場所は学校や公園でいいが、長期的な避難を強いられた場合に地域としてどのような対応があるのか考えるべきではないか。

<勉強会の今後の進め方について>

基本方針については、十分な意見交換をする時間がなかったもので、内容等について改めて確認する機会を設ける必要があると考える。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成21年10月25日 午後1時半～4時半
開催場所	ウィメンズパル（多目的ホール、視聴覚室、洋室D）
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

<安全・安心まちづくりについての意見交換>

水害対策について

- ・水害対策についての説明では、過去のデータ等の紹介だけで、行政でどのような対策を考えているのかを聞くことができなかった（残念である）。
- ・以前、ハザードマップの講習会に出席したところ、水深が50cm～2mになったら避難との説明であった。50cm～2mでは差が大きすぎるのではないかと。
- ・また、1・2階に居住している人は避難とのことであったが、避難の仕方についての説明はなかった。
- ・防災担当の役員が1・2階に居住している場合もあり、その人が避難すると指揮をとる人がいなくなってしまう。これに対する行政の答えもなかった。
- ・行政で説明会を開く場合は、どのような質問が出るのかを想定し、回答を用意しておいてもらいたい。
- ・江戸川ハザードマップは、想定が古いのではないかと。旧葛飾橋のところは、かつて土手がなかったが、その頃の想定で予測をしているとすれば、想定自体が古いことになる。
- ・川の水の増え方は昔と違っている。昔は上流域の雨量が水量に影響を与えていたが、今は東京の雨の方がきつい。なお、荒川の危険性は以前と比べて低くなっていると思う。
- ・最近、川の浚渫を行っていないようである。

地域の防災体制について

- ・防災設備が整っている場所はあるが、防災倉庫の鍵を開ける人を決めていない。行政の回答は、最初に来た人ということであった。
- ・防災電話を使用するにも小学校まで行かなければならないが、誰が行くのかが決まっていない。
- ・細かいことが決まっていないので、実際には動かないのではないかと。行政の方が組織化するように誘導すべきである。

防犯について

- ・防犯に関しては、カメラの設置等の機器による対応だけでなく、「川の手・人情都市」を目指すのであれば、犯罪者をつくらせないような街をつくるのが重要である。コミュニケーションが活発になる都市空間の形成が重要である。

その他

- ・先生の講演は、画面と同じ資料を手元にもらいたかった。見ているだけでは、頭に残らないので、このあと地域に帰って説明することが難しい。

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

活気と魅力あふれる商業環境の形成

都市型観光との連携による活気と魅力あふれる商業環境の形成

全国的に知名度の高いアニメキャラクターを観光資源として活かし、商店街活性化を図ることを記述。

大型店と商店街との間での人の流れをつくることも含めて、回遊性に広がりを持たせる取組の方向性を記述。

(新規) 青戸六・七丁目の整備を核とした安全で快適な市街地の形成

土地利用転換や病院の建替えの適切な誘導、交通利便性や公園整備による防災性の向上を図ることを記述。

まちづくりと併せて、地区周辺の道路整備や青砥駅の交通結節機能の向上を図る(又は検討する)ことを記述。

地域資源を生かした潤いのあるまちづくり

地域資源を生かした個性と潤いのあるまちづくり

中川での桜つつみの復活を明記。

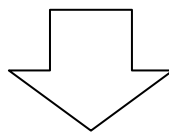
曳舟川、旧東井堀、古隅田川などの旧水路は、水と緑のネットワークとしての整備が完了していることから、ネットワークとしての維持保全と向上を基本とした記述とする。

旧街道や葛西城址は、歴史資源を生かした景観整備とネットワーク化を基本とした記述とする。

周辺環境との調和に配慮した落ち着いた市街地の形成

変更なし

市街地の地域資源との調和や街並み等の景観形成を付加。



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

活気と魅力あふれる商業環境の形成 特に意見なし

(新規) 青戸六・七丁目の整備を核とした安全で快適な市街地の形成

- ・青戸六・七丁目の整備では、今の計画(地区整備計画)で整備される道路につながる道路の整備も必要である。
- ・羽田空港と成田空港を結ぶ新高速鉄道が開業すれば、青砥・高砂のポテンシャルが高まる。青砥駅の整備は、青戸六・七丁目の整備だけでなく、そのような視点からも必要性が出てくると思う。

地域資源を生かした潤いのあるまちづくり

- ・旧水路は、ネットワークとしての維持保全と向上だけでなく、地域資源として積極的に活用することが必要である。
- ・例えば、江戸川区では親水公園沿いで景観計画を定めている。景観計画まではいかなくても教育面など地域での活用方策を考えることができる。
- ・葛西城は現在、歴史を感じるができない。葛西城址の発掘品は博物館で保存されており、本来的には史料館のような施設が公園にあることが望ましい。
- ・史料館は無理にしても、歴史を感じるようなもの(例えば写真など)を設置できると良い。
- ・葛西城址が歴史文化の拠点となれば、柴又や水元と連携した散策コース等をつくることもできる。

落ち着いたある住環境の形成と防災性の向上 特に意見なし

その他のご意見

- ・景観形成や羽田空港と成田空港を結ぶ新高速鉄道など交通体系を踏まえた拠点の位置付け、観光資源のネットワーク化については、全体構想にも地域から意見として反映させることが必要である。

<勉強会の今後の進め方について>

基本方針については、指摘事項を反映の上、予定通り次のステップ(整備方針)に進んで差し支えないと考えられる。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成21年10月25日 午後1時半～4時半
開催場所	ウィメンズパル（多目的ホール、視聴覚室、洋室D）
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

地域の魅力を生かした歴史文化の薫る賑わいのあるまちづくり

変更なし

地域の賑わいを維持・創出していくため、地域住民の活動の中心となる、鉄道駅（綾瀬駅、堀切菖蒲園駅、お花茶屋駅）周辺の機能強化、コミュニティ活動の拠点形成について記述を付加。

地域の魅力となる歴史文化資源の発掘、およびネットワーク化について記述を強化。

安全で緑あふれる快適な住環境の形成

下町特有の風情を大切に緑あふれる快適な住環境の形成

細街路、行き止まり道路を解消しつつ、路地空間のもつ地域らしい風情の保全にも配慮した空間形成について記述を付加。

細街路を解消しても、通過交通が入り込まず、だれもが安心して歩ける道路づくりについて記述を付加。

親水性の確保等による親しみの持てる川の復活

変更なし

小菅一丁目にて緩傾斜型堤防が整備中であることを示しながら、さらに進めることを記述。だれもが親しみを持てる河川空間となるよう、堤防沿いの環境整備について記述を付加。

（新規）水害、地震にも安全で、安心して住まえるまちづくり

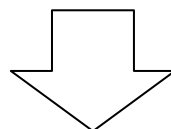
荒川橋梁の架け替えに伴う、荒川堤防の強化について記述。

避難拠点およびその周辺のユニバーサルデザイン化について記述。

安全な避難路の確保について記述。

地域の防災まちづくり活動を支援することについて記述。

公共施設改築時における盛り土化など、浸水対策としての高台の創出を記述。



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

地域の魅力を生かした歴史文化の薫る賑わいのあるまちづくり

- ・南綾瀬地域から多く利用する鉄道駅（綾瀬駅、小菅駅）は足立区との境にあり、駅周辺の整備に両区とも力を入れていないのではないかと。隣接する区との連携をとり、ぜひ駅周辺の活性化に力を入れてほしい。
- ・小菅西公園と小菅東スポーツ公園が、直接行き来できればよいと思うが、具体的な記述が難しければ、考え方として歩行者ネットワークをしっかりと形成することを記述してほしい。

下町特有の風情を大切にしたい緑あふれる快適な住環境の形成

- ・細街路や行き止まり道路の解消について、実際に家が建っている場所では、どのように事業を進めるのか。地区計画の活用も考えているのか。
- ・下町特有の風情は、大切にしていきたいと思う。しかし、住民それぞれに「下町の風情」に対する考え方が違うし、観光客はまた違うはずなので、どのように風情を大切にしたいまちづくりを進めていくかが悩みどころだと思う。大方針として、風情を大切にしたいことを記述しておくのは良いと思う。

親水性の確保等による親しみの持てる川の復活
特になし

(新規) 水害、地震にも安全で、安心して住まえるまちづくり

- ・堀切地域で開催した震災復興模擬訓練では、神社を活用して代替地を想定した。やはり、模擬訓練などを行うと、安心感が増す。
- ・「荒川橋梁」という言葉を聞いても、地域以外の人にはわかりづらい。「京成線荒川橋梁」とさらに具体名を出してはどうか。

その他のご意見

- ・現都市マスにも、まちづくりの方針が示されているが、10年経っても進まないのはなぜか。まちづくりを進めるためには、都市マスタープランを策定した後、どのように行動を起こせばよいのか。まちづくりの推進方策がわかりやすいとよい。
- ・まちづくりが進むきっかけは、住民からの要望の場合もあるし、行政からのアプローチの場合もあり、どちらから必ず行動しなくてはならないというものではないと思う。堀切地域のように、勉強会を開催していれば、住民からの意見を行政へ伝える機会も多い。
- ・既存の自治会がまちづくり組織となることもあり得るのではないかと。地域の組織は、簡単にはできないので、既存の組織を活用したい。
- ・地域の人は、都市計画マスタープランの存在も知らなければ、そもそも都市計画道路がどのように計画されているかも知らずに生活している。もっと地域への説明が必要だと思う。
- ・都市計画マスタープランは、都市計画の大方針を示すものと理解している。個別のことでなく、理念の部分をよく議論した方がよい。
- ・今回提示の資料は、概ね良いと思う。さらに具体的な内容を見てもないと、意見が出しづらい。次回には、もっと具体的な計画を示してほしい。

- ・掘切で進めているまちづくり勉強会の内容とは、連携して欲しい。
- ・小菅一丁目は高速道路や河川に囲まれた地域であり、病院や老人福祉施設などがいないためバスを利用しなくてはならない。東京拘置所の移転に伴う2.5haの用地については、ぜひ地域のまちづくりに活用していきたい。
- ・お花茶屋駅周辺では、自転車駐輪場が整備されたが、整備に伴ってさらに自転車が集まるようになった。地域の人が使いづらい。駐輪問題についても記述して欲しい。
- ・前回の勉強会で、「小菅地区で独自に行ったアンケート結果を参考にして欲しい」と発言したが、地域の問題があるので、データでの提出は控えたい。

< 勉強会の今後の進め方について >

基本方針については、概ね共有化出来たと思うので、予定通り次のステップ（整備方針）に進んで差し支えないと考えられる。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成21年10月25日 午後1時半～4時半
開催場所	ウィメンズパル（多目的ホール、視聴覚室、洋室D）
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。 特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

防災性を重視した魅力と活力に満ちた住工調和型の市街地の形成

変更なし

まちの成り立ちやコミュニティを踏まえ、今後とも防災まちづくりを住民と行政との協働のもとに推進する旨を強調。

居住者の高齢化を踏まえ、地域との協働でハード・ソフトの両面から防災対策に取り組む旨を付加。

町工場が安心して操業し続ける環境づくりについての記述は温存。

既存のコミュニティに配慮した工場跡地活用を図る旨を付加。

魅力ある行政・コミュニティ拠点の形成と拠点間、地域間ネットワークの構築

かつしかの核となる行政・コミュニティ拠点の形成と拠点間、地域間ネットワークの構築

立石駅周辺の再開発事業を通じ、防災性の向上と地域に根ざした生活サービス機能ほか、公益サービス・交流・交通機能を充実する旨を付加。

立石駅周辺・区役所周辺の文化・交流、行政機能の連携強化について、ネットワークの記述を含め見直す。

拠点形成を支える、安全・快適・環境にやさしい交通環境づくり（歩行者・自転車ネットワークの充実、安全な歩行空間確保のための体系的な道路ネットワークの形成など）

立石駅交通広場整備を活かしたバスネットワークの充実検討

中心地にふさわしい街並みづくりに取り組む旨を付加。

京成押上線の連続立体交差事業と合わせた周辺まちづくり

変更なし

四ツ木駅交通広場整備や都市計画道路拡幅、防災まちづくりを契機とした、地元商店街の活性化について付加。

連立事業と連携しつつ、路地的空間を活かして歩行者・自転車を重視した防災まちづくりを進める旨を付加。

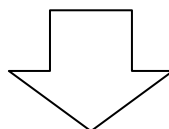
中川の親水性の確保などアメニティ性の高い、水辺と一体的なまちづくり

河川を軸とした親水性あふれる安全・快適なまちづくり

東立石緑地公園を起点とした中川の親水空間化を付加。

中川の治水対策をより一層推進する旨を強調。（耐震補強の推進など。荒川にも言及）

大規模洪水に備えたまちづくりの推進について付加。（避難経路の確保、避難地の確保 民間施設を含めた高所の確保、地域との協働による災害・防災情報の周知・共有化）



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

防災性を重視した魅力と活力に満ちた住工調和型の市街地の形成

- ・震災直後は相互扶助の精神といった“情”が重要だが、復興は組織化が重要になってくる。これらをどのように移行していくのか検討することが必要ではないか。
- ・耐震補強を促進するための方策が必要ではないか。
- ・“安全・安心”がまちづくりのベースになっている。これを念頭に個々の取り組みを考えていく必要がある。
- ・治安という観点も必要ではないか。
- ・高齢者の問題が重要であり、特別養護老人ホームといった高齢者施設を増やすなど、さまざまな取り組みが必要ではないか。

かつしかの核となる行政・コミュニティ拠点の形成と拠点間、地域間ネットワークの構築

- ・立石駅前が区の核という感じがしない。青砥駅前の方が核にふさわしいのではないか。
- ・青砥駅前には商業施設が少なく、買い物などはやはり立石駅前ですませることになる。区の核としては立石駅前の方がふさわしいのではないか。
- ・立石駅前について資料では再開発事業が前提に書かれているが、前提ではない。再開発について地元でどのような経緯があったのか踏まえるべきだ。再開発は、住民でちゃんと話し合って合意を得たものではない。
- ・立石前は、防災の観点から再開発が必要ではないか。再開発を進めたいと考えている住民がいる。
- ・立石前前の南口の商店街の活性化には再開発が有効ではないかと考えている。

京成押上線の連続立体交差事業と合わせた周辺まちづくり

- ・四ツ木駅前もまちの核になり得るのではないか。そのためには商店街の活性化を考える必要があるのではないか。
- ・立石駅前では、押上線の連続立体交差事業やこれにあわせた補274号の整備がすすめられ、鉄道に沿って道路の付け替えも必要となってくる。駅前の交通広場も都市計画決定されている。これらの基盤整備を進める有効な手法として第一種市街地再開発事業がある。この点を追記すべきではないか。
- ・交通広場は都市計画決定されているだけで、再開発を含め、事業化に住民が合意したわけではない。そもそも都市計画決定自体、住民合意がなされていないのではないか。

河川を軸とした親水性あふれる安全・快適なまちづくり

- ・ハザードマップがあるが、実際に中川の堤防が決壊した場合に、どうすればよいのだろうか。常に危機意識を持っていることが必要だ。
- ・中川が決壊した場合にどこまで水があがってくるのか、まちの中に表示しておくことが有効ではないか。
- ・中川の堤防が地震で壊れる可能性がある。スーパー堤防化が必要ではないか。

その他のご意見

- ・第3回の資料は唐突。第2回から話が進み過ぎている。
- ・第2回の意見のまとめは、再開発事業を肯定している意見が強く書かれている印象がある。
- ・再開発事業について“賛成”“反対”それぞれの意見をバランスよく入れてほしい。
- ・全体像が示されていない中で、何を話し合ってもらいたいのかはっきりしていない。
- ・なぜ、現行計画で示されている事業が進まないのか検討すべきだ。
- ・主要なものだけでなく、事業の進捗を全般的に示すことはできないか。

<補 274 号線の延伸について>

- ・補 274 号線延伸は、奥戸地区との関係を踏まえ、取りやめた経緯があるのではないかと。中川に橋をかけない前提で、東立石緑地公園の整備を行ったのではないかと。
- ・補 274 号線延伸の構想がなくなったわけではないはずだ。東立石緑地公園整備は決して構想取りやめが前提となっていたわけではない。東立石 4 丁目地区の地元では延伸の必要があると考えている。
- ・長期的な視点から延伸を位置づける必要がある。マスタープランから記載を消す必要はないのではないかと。
- ・何年たっても実施されない事業は、白紙に戻すべきではないかと。
- ・八ツ場ダムのような悲劇を起こさないためにも見直しは必要だ。

<勉強会の今後の進め方について>

- ・引き続き基本方針についての話し合いからはじめる必要がある。
- ・再開発にかかわる記述の取り扱いについては、事前に調整する必要がある。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第3回勉強会

開催日時	平成21年10月25日 午後1時半～4時半
開催場所	ウィメンズパル（多目的ホール、視聴覚室、洋室D）
テーマ	第2回の討議等をもとに、まちづくりの基本方針案を事務局でまとめ、これをもとに討議し勉強会としての方向を明らかにする。 特定テーマの検討...『安全・安心まちづくりについて』

< 勉強会において提案した現都市マスの基本方針ごとの見直しの考え方 >

魅力的で身近な広域生活拠点の形成 変更なし

新小岩駅における交通結節点機能の整備が進捗していることを記述（東北交通広場、北口連絡通路、駐輪場の整備等）

広域拠点としての魅力的な都市機能の強化を図ることを記述。

駅前地区の再開発等における低炭素型まちづくりの誘導を付加。

快適で美しい都市空間の創造を付加（無電柱化、バリアフリー基本構想に基づくバリアフリー化、景観誘導等）

交通網の充実による拠点間の連携強化を付加。

（新規）中川の治水安全性の向上を始めとする災害に強いまちづくり

中川堤防の耐震補強により、治水安全性が向上していることに触れるとともに、一層の安全性向上の推進を記述。

新小岩地区における震災復興まちづくり模擬訓練を通じた、震災復興を意識した震災対策を記述。

公共施設改築時における高盛り土化など、浸水対策としての高台の創出を記述。

親水性の高い文化・レクリエーション拠点の形成

中川を軸とする親水性の高い新しい魅力づくり

中川を本地域のシンボルとして捉え、親水性の向上、テラス整備による歩行者遊歩空間の創出を進めるとともに、広域から人を集める観光資源としての活用を記述。

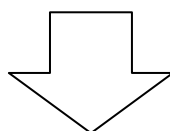
既存のストックを活用したオープンスペースの確保について検討することを付加。

落ち着いたある住環境の形成と防災性の向上

落ち着いたある住環境の形成と豊かな生活空間の創造

土地区画整理事業を施行すべき区域の方針を受けたまちづくりの推進を付加。

バリアフリー、美しい景観づくり、低炭素型まちづくり等を付加。



これに対して

<見直しの考え方案に対するご意見>

魅力的で身近な広域生活拠点の形成

- ・ 4つの交通広場の役割分担の検討が必要である。
- ・ 4つの交通広場に、交通機能のみでなく、交流、避難地等の機能も持たせられないか。
- ・ 交通広場や南北自由通路だけでなく、新小岩駅周辺のまちづくり全体についての構想・計画づくりが必要である。
- ・ 東南口の計画地には官舎があり、これも含めた整備が必要と考える。
- ・ 総武線が地域分断要素になっているので、どこでも横断できる形態が望ましい 連続立体化
- ・ 新小岩公園は、防災性向上のため今の堤防の天端まで土盛りをする案があった。再整備の際にはスーパー堤防化

(新規) 中川の治水安全性の向上を始めとする災害に強いまちづくり

- ・ 耐震補強をしているといえども、堤防が絶対に壊れないかどうかを確認したい。まちづくりはその後のことである。
- ・ 堤防が壊れて全地域が浸水するのではなく、一部の地域は浸水せずに避難地として機能出来るようにすることが必要である。
- ・ 中川沿いの車道は歩行者、自転車にとって大変危険であるので、改善が必要である。
- ・ 高台を作ることは大変よいことだ。

中川を軸とする親水性の高い新しい魅力づくり

- ・ 吉野川が観光資源として復興するため、コンサートなどのイベントを開いたことを聞いたが、中川でも是非取り組みたい。
- ・ 本奥戸橋のたもとに、干潟があるのでこれを保全しつつ、葦などを植えて、自然への回帰を図ったらどうか。
- ・ 新中川においても子供が遊べる空間がほしい。

落ち着いたきのある住環境の形成と防災性の向上 特に意見なし

その他のご意見

- ・ 現都市マスの「行政・コミュニティ拠点との連携強化」は割愛してよい。また、南北交通の充実は見直し案の にあるので良い。
- ・ 実現可能な計画ばかりでなく、当面実現が難しそうでも長期的に検討できることは計画として入れておいてほしい。
- ・ 低炭素まちづくりとして、鉄道利用を中心とするまちづくりを打ち出してほしい。その中に、新金線の活用が含まれる。
- ・ 区役所等の区の出向がなくても、いろいろな交流や情報入手等が可能なITをもっと活用したまちづくりを進めてほしい。

<勉強会の今後の進め方について>

基本方針については、概ね共有化出来たと思うので、予定通り次のステップ(整備方針)に進んで差し支えないと考えられる。